

ゴルフ会員権、避暑地上昇

東京近郊 箱根、3カ月で1割高

箱根や軽井沢など都心部に近い避暑地のゴルフ場の会員権価格が上昇している。猛暑日が続く「暑い夏」が今年も予想されており、比較的涼しい場所プレーできることが人気につながっているようだ。ホテルなどを割安で利用できるリゾート会員権にも同様の動きがある。

会員権取引大手の桜ゴルフ(東京・中央)によると、箱根カントリー倶楽部(神奈川県箱根町)は700万円と同50万円の会員権価格は、3月末時点で550万円と昨年

避暑地にあるゴルフ会員権の上昇が目立つ		
	2024年12月末	25年3月末
箱根カントリー倶楽部(神奈川県)	485万円	550万円(13%)
グランディ那須白河ゴルフクラブ(福島県)	40	45(13)
大浅間ゴルフクラブ(長野県)	650	700(8)
旧軽井沢ゴルフクラブ(長野県)	3500	3700(6)
日光カンツリー倶楽部(栃木県)	380	390(3)
会員権平均価格(主要150コース)	282	285.6(1.3)

出所は個別コースが桜ゴルフ、平均が関東ゴルフ会員権取引業協同組合。カッコ内は12月末比の上昇率

0円。2024年12月との比較では1.3%高で、箱根カントリーなどの上昇が際立っている。避暑地のゴルフ会員権は春先から価格が上昇しやすいとされてきた。購入から審査を経て入会承認が下りるにはおおむね2カ月、長いと3〜4カ月かかる。真夏にプレーするには春先に購入する必要があるためだ。ところが近年では2月ごろか

ら引き合いが強まっている。大浅間ゴルフの玉置敏浩社長は「軽井沢エリアは標高が高く、夏場は平野部よりも6〜7度気温が低く快適」なことが人気の一因と話す。箱根や軽井沢のゴルフ場は都心から日帰りプレーを楽しめるのも魅力だ。リゾート会員権でも都心近くの避暑地の施設で価格の上昇がみられる。リゾート会員権の販売を仲介するe会員権(横浜市)によると、リゾートトラストが運営する「エクスプレス」の箱根離宮(箱根町)の交換グレードSは3月末時点で1500万円と、昨年末から200万円(15%)上がった。湯河原離宮(神奈川県湯河原町)の交換グレード

Sは3月末時点で750万円と同100万円(15%)値上がりした。3月の会員権平均価格は310万円と前月比で4万円(1.3%)安く、2カ月連続で値下がりした。昨年末比では4.6%安にとどまる。リゾート会員権は通常、1つの施設で会員権を持てば、グループの別施設も利用できる。そのため特定の施設にこだわ

る理由がゴルフ会員権に比べて乏しい。だが「希望する施設の会員権を保有すれば優先的に予約が取れるメリットがある」(e会員権)ため、東京近郊の施設の人気が高まっているようだ。ゴルフ会員権やリゾート会員権は株式など金融商品の価格に連動しやすい面がある。足元ではトランプ米政権の関税政策を背景に株価が乱高下するなど、先行きには不透明感がある。

「(e会員権の浦井智子代表)。桜ゴルフでは、3月、4月単月の注文件数は売りが買いを上回った。ただ、東京近郊のゴルフ場の会員権購入者は金銭的に余裕のある層が主体で、利便性の高さや避暑地などでのワーケーションの浸透により「価格は相対的に底堅く推移しそうだ」(桜ゴルフの佐川八重子社長)との見方もある。